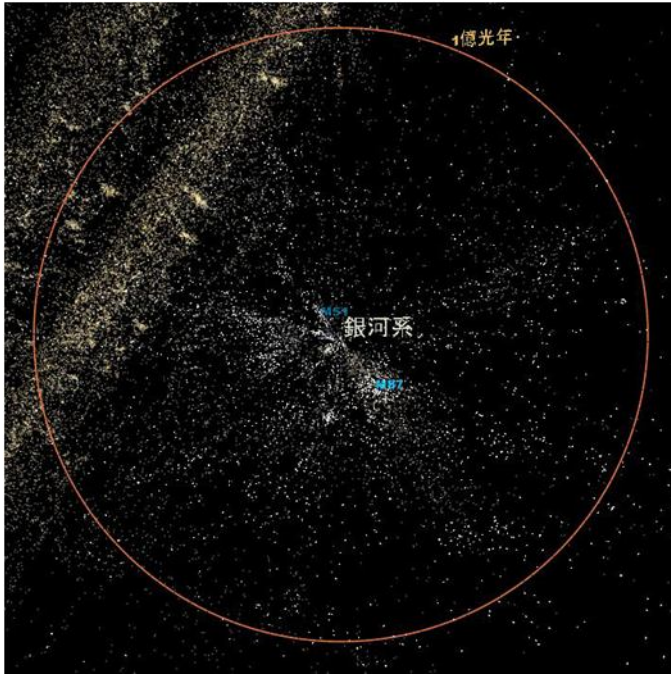


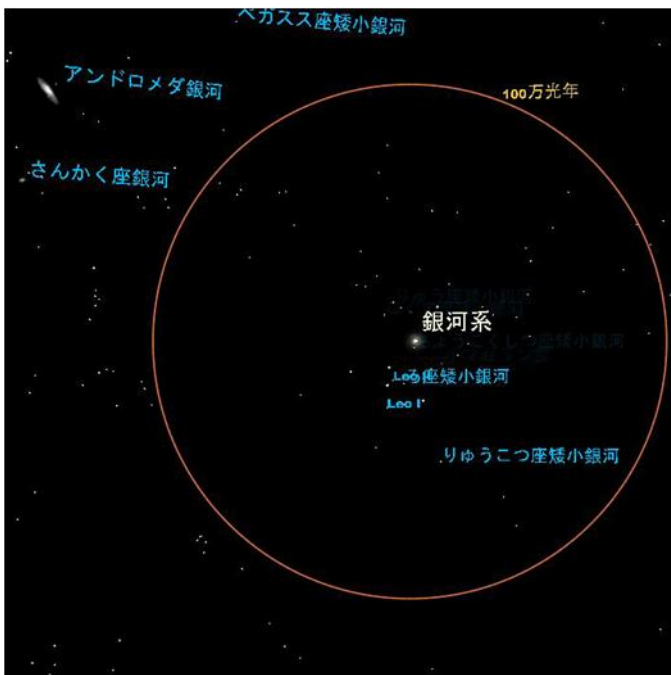
「天文ソフト “Mitaka” (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

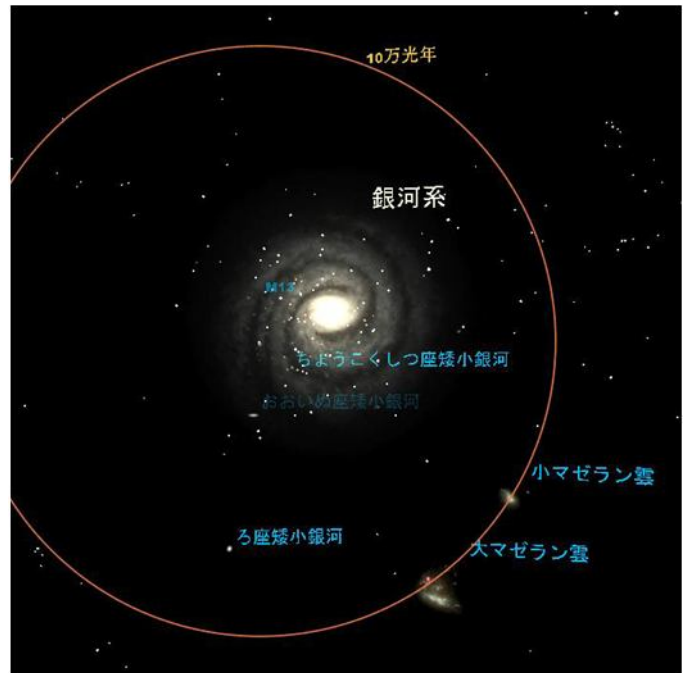
“Mitaka” はすばらしい。138 億光年の広大な宇宙空間を自由に旅行でき、写真撮影もできる。さあ、1 億光年の彼方から、太陽系への宇宙旅旅行を続けよう。



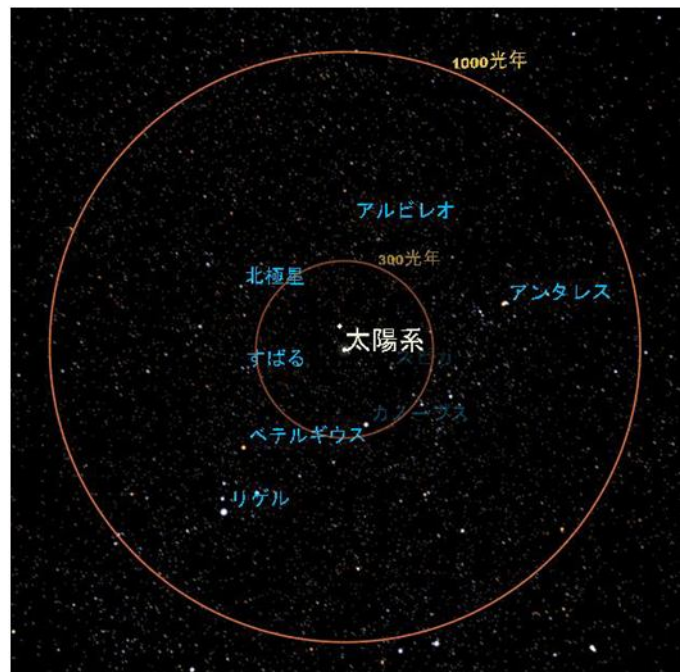
③太陽系から 1 億光年。ここまで来ても、我が銀河系は、まだ「点」にしか見えない。銀河系が属する、局部銀河団の小さな銀河に過ぎない。



④太陽系から 100 万光年。やっと銀河系が独立で視認できるようになった。「地球から肉眼で見える最も遠い物体」である、アンドロメダ銀河も見えてきた。



⑤太陽系から 10 万光年。銀河系の全容が見えてきた。南半球で見える、大小マゼラン雲も見えている。マゼラン雲は、銀河系の伴銀河と考えられていたが、最近の研究で「通りすがりの銀河」との説が有力である。



⑥太陽系から 1000 光年。太陽近郊の個々の恒星が確認できるようになった。視点(観測点)が地球ではないので、星座の形は地上から見るものとはちがう。太陽系からの距離や方向も含めた、正確な恒星データから、瞬時に画面がつけられている。(つづく)